

環境心理学

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：建築や環境を利用するヒトの知覚・認知・行動の特性を理解した上で、建築・環境デザインのあり方や手法を知ることが本科目のねらいです。特定の環境におかれた人間の心理の諸概念について、動物や集団としてのヒト、環境を自ら心地良い環境に改変しようとする主体としてのヒトに着目し、具体的デザイン事例をあげて講義します。

なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（その他）です。

- 到達目標**：①ヒトの知覚・認知・行動の基礎的な知識を身につける
②ヒトの知覚・認知・行動の基礎的な知識に基づいて環境・空間デザインを企画できる
③ヒトの知覚・認知・行動の基礎的な知識に基づいて環境・空間デザインを評価できる

■**担当教員**：

片山 めぐみ

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 環境心理学とは
- 第 2 回 環境知覚と環境認知
- 第 3 回 パーソナリティと環境
- 第 4 回 パーソナルスペース
- 第 5 回 テリトリアリティ
- 第 6 回 クラウディング
- 第 7 回 プライバシー
- 第 8 回 集まって暮らす環境
- 第 9 回 都市のイメージと認知地図
- 第10回 空間移動と心理的距離
- 第13回 住居と公共空間の環境心理
- 第11回 オフィスの環境心理
- 第14回 医療・高齢者施設の環境心理
- 第12回 自然空間の環境心理
- 第15回 コミュニティ心理学

■**教科書**：授業時にハンドアウトを配布します

■**参考文献**：「環境心理学 上・下」、R.ギフォード著、北大路書房
「人間都市学～安全で心地よい環境をつくる人間都市学」、大野隆造、井上書院

■**成績評価基準と方法**：授業態度や発表などの授業への参加度（50%）、授業内レポートおよび小テスト（50%）によって評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業内課題・レポート・小テスト	◎	◎		各回のポイントを理解していること。	50
授業態度・課題発表		◎	◎	積極的な姿勢。	50
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：視覚心理学、ユニバーサルデザイン論、感性情報学

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：講義では学問的理論だけにかたよらず、身近なデザイン事例にも言及します。また一方向の講義にならないよう、簡単な実験や発表、練習課題などを取り入れます。